

～乗ってみたいこんな乗り物～

F「さあ、というわけで乗ってみたい乗り物についてです」
 M「ダチョウと～ゾウと～シカと～イルカと～メーヴェ♡」
 F「待って待って、今回動物は抜きで！！」
 A「機械ということですね？ なら、私は宇宙エレベーターに乗りたいです！ 宇宙から地球を見下ろしてみたい！」
 M「お、さすがSFのAさん！ 期待を裏切らないチョイスをありがとう！ 宇宙エレベーターいいわね、私も乗りたい。あれは実現するんでしょ？ そうだ、SFなら銀河鉄道999とかどうだろう」
 F「乗りたい！！！」
 A「乗りたいです！！！」
 M「おお、思った以上の反応。同じ銀河鉄道でも宮沢賢治版はだめよ、行っちゃいけないとこ行っちゃうから。でも999はロマンだよね、私食堂車でピフテキたべたい！」
 F「私はラーメンが食べたいです。未来の乗り物は夢が膨らみますね！」
 M「未来といえば、私が小学生の時に雑誌『小学一年生』で未来の乗り物としてリニアが紹介されてたの覚えてる。リニアも実現するのよね」
 通りすがりのスタッフS「私リニア乗ったよ」
 F&M&A「えっ！？」
 スタッフS「試験場みたいなところで体験乗車したの。でも、こんな早いのか～って速度計見るだけだった印象。山の中走ってきたよ」
 M「すごい、リニアの未来がすぐそこまで来ている！」
 F「過去の乗り物はどうですか？ 豪華客船とか乗ってみたいです！」
 M「タイタニック？」
 F「いや、それ沈んじゃう……」
 A「オリエント急行？」
 F「殺人事件……」
 M「カゴは？ 大名が乗るやつ」
 A「よく時代小説やドラマで、くせものに外から刺されるやつですね！」
 F「……うーん。やっぱり過去の乗り物はやめておきましょうか。安全性が不安。（&高確率でサスペンスやミステリー展開になる）」

A「今後もきっと、いろんな乗り物が出てくるんでしょうね。

魔法のじゅうたんやカボチャの馬車が実現したりして」

M「昔も今も未来も、乗り物は夢がいっぱいね！」

F「みなさんも、乗ってみたい乗り物をホンダラケポストの投稿で教えてね！ まってま～す！」

←続きはブログで！ <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>



ホンダラケ

Hondarake
H30.10.1

今回のテーマはみんな大好き(?) 乗り物！あなたのロマンを感じる乗り物を見つけてください。

のりものざんまい



ハーレーじじいの背中

坂井希久子：著 双葉社 2016年刊 Fサカ



坂井希久子

高校三年生の真理奈は、医学部志望の受験生。両親が学費を工面するために、家業である銭湯の敷地を売り払い、分譲マンションを建ててしまった。いきなり祖父母と一緒に住むことになったが、老人4人と働かない父という現実がプレッシャーとなって真理奈にのしかかる。全部投げ出ししてしまいたい……。そんなとき母方の祖父、晴じいと言った。「そんなに嫌なら、さらってやろうか？」昔からバイクで日本中を放浪している祖父を無責任だと思っていた真理奈だが、一緒に旅をするうちに知らなかった晴じいの過去や両親の逸話を知ることになり、最後には大きく成長をとげる。笑いあり涙ありの家族小説です。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「学習」。さすが進学校…!

読むだけですっきり頭に入る日本史

後藤武士：著 2006年刊 宝島社 210.1/06

今回私が紹介する本は、「読むだけですっきり頭に入る日本史」です。本のタイトル通り縄文時代から現代までの日本の歴史がまとめられた一冊です。この本を読んだとき、私はまだ小学生で歴史が苦手でしたが、スラスラと読めました。歴史が好きな人はもちろん、苦手な人でも読んでほしい本です。



P.N. レモネード (高校2年生)

絵を描いたりゲームをすることが好きで最近は写真を撮ったりすることにハマっています。ファンタジー小説が好きです。

リサイクル予備軍～なぜ君は借りてもらえないのか～ フルメタル・ビューティ！2

花形みつる：著 講談社 2007年刊

おそらく2巻完結なのに、貸出がさっぱりな2巻です。中学生なのに身長が180cmもあるけやき。本当はふわふわ乙女スタイルが好きなのに、ガタイのせいで似合わないし、クラスでも変なあだ名付けられて浮いてる感じ。家も学校も上手くいってなくて、行き詰っているけやきが偶然見つけたのは9歳の時の日記。改めて読んでみると、当時の自分は今の自分よりずっとずっと頑張ってた。自分のコンプレックスに前向きに立ち向かう姿が描かれていて、思春期な人たちにピッタリだと思うんですが、なぜどうして1巻を借りた人は2巻を借りてくれないのだろうか？それはおそらく1巻のラストが「続きはどうなるの？」的な終わり方ではなく、エピソードとしては完結しているからでしょうか。それとも1巻より2巻の表紙の方がメイクが濃いからかも。



F/ハナ

ホンダラケポストの投稿を紹介するコーナー¹⁵

おすすめ本：『黄金の王 白銀の王』 沢村 凜

かわいらしい表紙とは裏腹に、中身は厚重的な歴史ファンタジー。物語の熱にあてられて、あれよあれよという間に読了。読後は余韻に溺れて、しばらく動けなくなってしまふこと請負いデス。心して読んで下さい。上橋菜穂子さんや荻原規子さん、『十二国記』の小野不由美さんなんか熱狂したことのある貴方に。きっとハマる筈です！
(P.N.本読むノラ猫さん)

M「おすすめしたい！！！！という熱意が伝わってくる投稿用紙でした」

A「表紙はヤングっぽいですが、一般書です」

F「翠という架空の国を舞台に、争いあう二つの部族の王が描かれた小説です。長く殺し合いが続いた一族同士が手を取り合い、ともに翠を導いていくストーリー。厚重的な歴史ファンタジーという紹介通り、政治の舞台という表向きの顔と、二人で語らう時の素顔という、王たちのふたつの顔が印象的でした。あとラストが……」

M「な、なによー。どうしたの」

F「ぐう、ネタバレはしたくない……！」

A「どんなラストだったんでしょう。気になる人はぜひ読んでみてくださいね！」



F/サワ 2007年刊
幻冬舎

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『八十日間世界一周(上・下)』ヴェルヌ著

高野優訳 光文社古典新訳文庫 2009年刊

君たちさえよければ私は八十日間で地球を一周することに二万ポンドかけよう

19世紀のイギリス。世界一周に3か月かかるのが普通だった時代に、全財産の半分をかけて80日でやってのけると言ってしまった紳士のフォッグ様。召使のパスパルトゥー一人を連れてトランク一つで旅立ちます。本人曰く、すべては計画通りらしいのですが、道中は予想もしないトラブルの連続で、優雅なフォッグ様の陰で健気に頑張るパスパルトゥーの姿に思わず涙が出ます。道中に使う乗り物は鉄道や汽船がメインですが、必要に迫られて橇や象に乗ったりもします。最後はどんでん返しの連続で果たして間に合うのか！ハラハラ間違いなし！余談ですが、この作品は昔々映画にもなり、そのテーマ曲は今でも旅行番組などにも使われているんですよ。きっと聞いたら「ああ！これ知ってる！」って思うくらい有名な曲です♪聞いてみてね。



953/ヴェ